



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/hodai/>

第 9 号 平成 23 年 11 月 15 日

香川県立農業大学校

〒 766-0004

仲多度郡琴平町榎井 34-3

TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989

専攻実習の取り組み 2 学年が、自ら課題を選定し、調査・研究・取り まとめまでを取り組むプロジェクト学習です。

花きと野菜の複合経営を目指して

花き園芸コース 兼若 諒

私の家はまんのう町の徳島県境標高約 700 m の山間で高冷地キャベツを中心に農業を営んでいます。しかし、近年の天候不順によって山間地でのキャベツの収穫量は減少しているとともに、近所でも高齢化によってキャベツのような重量野菜から離れる農家が増えており、農業大学校卒業後就農しようと思っている私はキャベツに代わる新しい品目を模索している最中です。

そのような中、私は農業経営高校進学と同時に花き栽培に興味を持ち、花きと野菜の複合経営を目指すようになりました。現在、卒業論文の中では農業大学校と自宅の畑で、盆出荷作型を中心にトルコギキョウ、盆コギク、シンテツポウユリ等を同時に定植し、切花品質や開花時期を比較調査してきました。標高が高く昼夜の温度差が大きいことによる切花の高品質化に向けての有利な点もあれば、逆に

雨が多く病気が出やすかった点など不利な点も見えてきました。農業大学校卒業後はこれらのデータを参考に、花きと野菜の複合経営を確立していきたいと思っています。



ナシ「幸水」の安定生産

果樹園芸コース 瀧井文実

私は、本校の校舎から少し離れた果樹園で実習を行っていました。2 年生になるとそれぞれ担当する果樹を決め、各自テーマを決めてそれについて実習を行います。私は、ナシが好きな



でナシを選択しました。今、2 年生は卒論を作成しており、私のテーマは「幸水の安定生産のための一回摘果による果実品質調査」です。

試験区は一回摘果、対照区は三回摘果を行いました。収穫日には二つの区から十果選び、品質の調査を行いました。現在は、得られたデータをパソコンに入力し、そのデータの統計処理を行っています。

オリーブ挿し木繁殖の

効率的生産技術の検討

造園緑化コース 小松采加

オリーブの挿し木繁殖では、一年生枝の先端部を挿し穂として利用する緑枝挿しが一般的です。しかし、緑枝挿しでは一本の一年生枝から一本しか採穂できません。一方、他の樹種での挿し木では一年生枝のある程度

硬化した部位を挿し穂として利用します。

そこで、一年生枝の先端部、中間部および下部を利用した挿し穂が挿し木後の生育に及ぼす影響を検討しました。さらに、他の多くの品目で挿し木に利用されるオキシベロン粉剤の挿し穂基部への粉衣効果も同時に検討しました。

その結果、挿し木後の発根率や鉢上げ率は、オキシベロン粉剤粉衣処理の効果が高く、粉衣処理有が無より高くなりました。さらに、オキシベロン有の場合には、中間部が先端部、下部より高くなりましたが、オキシベロン無の場合には部位による差はありませんでした。この結果に基づき、現在、挿し木繁殖の品種間差異と挿し穂の調整法について検討しています。



牛の効率的な飼育方法 畜産コース 堀 篤史

私は三木町の畜産試験場で専攻実習に取り組んでいます。

畜産農家は、常に品質の良いものを低コストで生産し、消費者に安全でかつ安心な畜産物を消費者に提供することが重要な課題となっております。

このため私は、牛のより効率的な育成期の飼育方法を課題として、毎日実習先の講師の先生方に教えていただきながら取り組んでいます。

現在のところ、消費者に安全でかつ安心な畜産物を提供するための飼育技術は、餌やりや床替えなどを丁寧にやり、家畜にストレスを与えないことだと感じております。



この課題に対して約1年間

の専攻実習期間で全て習得することは難しいとは思いますが、残り少ない専攻実習期間を真剣に取り組み、そして、講師の先生方のご指導を得ながら卒業論文を取りまとめたいと思います。

「たべて菜」の適性株間の検討 野菜園芸コース 川西祐馬

香川県農業試験場で、さぬき菜(母)×小松菜(父)により品種改良された「たべて菜」は、育成されて間もないことから、まだ栽培管理が十分確立されていません。そこで、基本的な栽培管理である「適正株間」について、仲間の手を借り調査研究を進めています。

今回は、露地の秋冬作における株間調査をしており、120cmの畝に3条播きとし、株間を5cm〜8cm変更しています。今後、株間変更が、生育と収量にどのように影響するかをデータ収集する予定です。今年、台風が2つも到来しましたし、秋雨の影響で、播種時の土壌条件が悪かったため、初期生育が心配な状況です。学校で専攻実習に取り組ん

でいる2学年は、午前中が農場で栽培された野菜の出荷準備、午後から自分たちのテーマに基づき調査研究を進めています。



活躍する卒業生

村上 勇介さん

(造園緑コース
平成22年度卒業生)

村上さんは、東かがわ市出身で、担い手養成科造園緑化コースで造園施工技術を2年間学びました。

2年生の時に、善通寺市が主催している善通寺フラワー&ガーデンフェスタに、村上さんが中心になって農大として始めて参加しました。農大から見える象頭山を縮景にした庭の風景の作品を作成し、



その概要を卒業論文として取りまとめました。

2年生の秋、農場実習の時間を利用して、善通寺市にある有限会社龍虎園へ造園技術を学びに行きました。本年度から採用しているインターンシップの走りです。何故か彼は農大の変化のきっかけになっています。

現在、龍虎園で活躍していますが、将来は独立できるように希望を持ち、造園技術を磨いています。

「当然ながら職場体験と就職してからでは、会社との関係も異なるし、また、職人さん方の仕事の速さ・仕上げの美しさの違いを実感しています。学生時代にもっと身を鍛えればよかった。」とのことでした。

活躍する研修生

西野 由之さん

(平成22年度修了生)

今回は、観音寺市で精力的に農業に取り組み始めた西野由之さんを紹介いたします。

西野さんは平成22年度の本校技術研修科の修了生です。野菜コースで一年間野菜栽培の研修を受けられました。

大手水産会社で35年勤められ、22年4月から実家にある農地を利用して野菜栽培に取り組むべく農業大学校に入学されました。

研修期間中からレタスと青ネギの栽培について農協、普及センターに相談をしながら進めていきました。最初から大面積は失敗し易いとアドバイスを受けたようですが、農地の所有が100a以上あることや売上の確保をするために初年度からレタスを140a栽培することになりました。

いきなりレタスをたくさん作ることにしたため農作業が忙しくなり、農大の研修にも

参加しにくくなった時期がありました。それでも時間を作って最後まで研修に参加されました。親類、家族の手を借りたり、一時的にシルバ―人材から来てもらったりして22年度は140aのレタスを無事終了しました。

当面はレタス150a、青ネギ30a、ブロッコリー25a、水稲120aからスタートするのですが、将来は規模拡大をし、売上一億円を目標としています。借地と雇用労力の活用で少しづつ規模を拡大していく計画です。近隣の篤農家、関係機関、流通業者と積極的に関わりを持ち、視野を広げて点と点の情報ネットワーク状となるよう努めたいとのこと。



目下ネギの出荷調製、レタスの育苗、定植準備、植え付け作業で忙しい日々を過ごされています。西野さんの今後の益々のご活躍をお祈りいたします。

農業者大学校サマーセミナーに参加して

2 学年 長尾 守祐

8月2日から5日までの4日間茨城県つくば市にある農業者大学校のサマーセミナーに参加してきました。今回のサマーセミナーでは「地域で活躍する農業者を目標して」のテーマの下、全国の農業大学の学生と共に講義、現地視察、グループ



ワークなどが行われました。中でも、現地視察で訪れた農事組合法人「和郷園」の取り組みには感動しました。「和郷園」は千葉県北総地域を主な生産拠点にする約90軒の生産者のグループによる法人です。農業を産業化しようという取り組みなかで、加工、販売のいわゆる6次産業的な取り組みだけでなく、GAPを取り入れた生産工程管理やリサイクルセンター、バイオマスプラントによる

残渣等の利用による循環型農業への取り組み、また、海外展開、農業の観光利用を取り組むなど、事業の複合化で現在の農業の到達点の一つとも言える法人です。これから私が農業に携っていく上で、農村側に基盤を置いた産業づくりを目指す「和郷園」の取り組みは大いに参考になりました。

農耕者限定運転免許への取り組み

大型農業機械実習場では、農耕車限定の大型特殊免許とけん引免許の技能試験が年4回程度行われています。これは、農業機械利用技能者の養成と農作業安全の啓

を目的とした農業機械研修の一環として実施しているもので、県運転免許センターの協力のもと、昭和40年から始まりました。

今年、本校学生10名が将来の就農、農業法人等への就職に向けて大型特殊免許の講習を受講し、努力の甲斐あって無事全員合格し、農耕車限定の大型特殊免許を取得することができました。



造園技能検定に挑戦

造園緑化コースでは、造園技能の向上と資格取得のため、国家検定である、3級造園技能検定を1学年で、2級を2学年で取得することを一つの目標に、本年もこの試験

に挑戦しました。

その結果、入門編である3級検定は、4月から初めて造園を勉強する1学年の学生にとり、造園用語などが出題される学科がやや難しく、合格者4名、実技試験のみ合格者2名となりました。

また、2級検定は2学年5名が、猛暑の9月10日〜11日に実技検定を受検しました。

本年から、実技課題が大幅に改定され、2脚鳥居型支柱が除外され標準時間も2時間30分と短縮された中、限られた時間で四つめ垣、および敷石などの作成に懸命に取り組みました。その結果、合格2名、実技のみ合格1名、学科のみ合格1名でした。



農大ふれあい市 開催!



本校の学生自治会が、恒例の『農大ふれあい市』を開催します。
 本年も学生が頑張って趣向を凝らした企画を用意しておりますので、お越ください。

開催日
 11月12日(土)

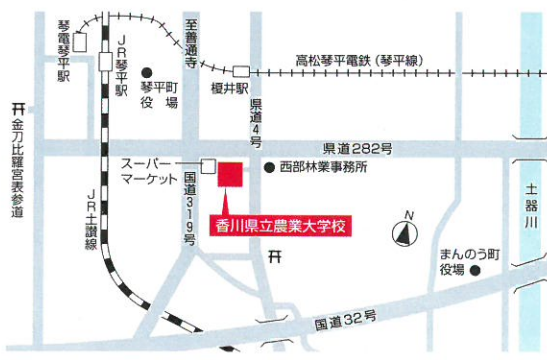
開催時間
 午前10時半～午後2時

内容(予定)

- 野菜、果物、モチ米販売
- 苗物、鉢物、堆肥等販売
- 模擬店(焼そば、焼鳥、餅、菓子等)

オープンキャンパス

来年度、入学等を希望される方や保護者の方で校内見学を希望される方は受付までお越しください。



《お願い》本校の駐車場は、数に限りがありますので、できる限り公共交通機関をご利用ください。

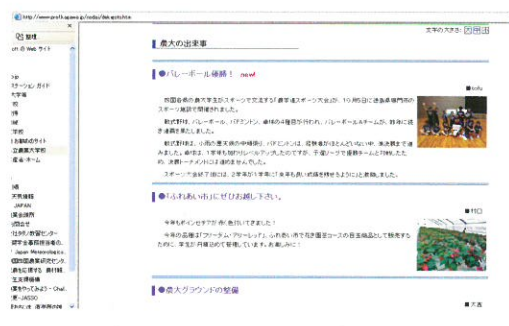


農大 TOPICS

農大ホームページでは、授業の多くを占める実習を学生が書いた日誌で紹介する実習日誌を毎月約4人分を掲載しています。各コースで、どのような実習をしているのが、学生目線で感じられると思います。

また、農大での時々の話題を職員が書いた農大の出来事も毎月4回程度掲載しています。

農大の行事の様子や雰囲気をご想像していただけるページだと思えますので、一度アクセスしてください。



平成 24 年度学生・研修生募集

担い手養成科

●募集人員

野菜園芸・花き園芸・果樹園芸・造園緑化・畜産
 5コースで45名

●一般入試

試験内容：小論文、一般教養、面接試験

●前期日程

受付期間 12月5日(月)～12月19日(月)

試験日 1月5日(木)

合格発表 1月12日(木)

●後期日程

受付期間 2月20日(月)～2月27日(月)

試験日 3月2日(金)

合格発表 3月8日(木)

*推薦入試は終了しました。

技術研修科

●就農支援の研修

研修期間は、4月から1年間です。

◆就農準備研修

研修期間は4か月で、年間3回募集します。

- 農業機械技能者養成研修
- ◆農耕車限定大型特殊運転免許研修
- ◆農耕車限定けん引免許研修
- ◆農業機械士研修

《お問い合わせ先》
 農業大学校総務研修課
 TEL 0877-751141
 又は、各地域の農業改良普及センター

今後の学校行事計画

11月12日	農大ふれあい市
1月5日	一般入学試験(前期)
1月18日	校内卒業論文発表会
1月26～27日	中国四国プロダクトフェア発表会
2月21～23日	全国農業大学校フェア発表会
3月2日	一般入学試験(後期)
3月6日	卒業式(予定)
3月7～9日	1学年県外先進地研修